古文ドリル：「らむ」の用法識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト〜難関私大・国公立二次まで） **著作権**：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「らむ」の3用法

古文の助動詞「らむ」は、終止形接続（ラ変は連体形接続）の **現在推量** の助動詞。文中での働きが3パターンあります。

用法	訳	判別ポイント
① 現在推量	今ごろ〜ているだろう	目に見えない遠くの事柄、文末
② 原因推量	（どうして）〜なのだろう	「など・なぞ・いかで」と呼応
③ 伝聞・婉曲	〜とかいう・〜のような	体言の前

識別の鉄則

1. **直後を確認**：体言なら婉曲、文末なら推量
2. **文中の疑問詞を確認**：あれば原因推量
3. **時間副詞を確認**：「今ごろ」「いまごろ」あれば現在推量

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

> 「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。
> こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「らむ」の 直後 をまず見る

- 直後が **体言（名詞）** → **婉曲・伝聞**「〜のような／〜とかいう」
- 直後が **句点（。）／文末** → **現在推量**「今ごろ〜ているだろう」
- 直後が **「ば／ど／ども」** → **已然形** で原因・逆接系の文脈
- これで3用法の入り口が決まる。

コツ② 文中の疑問詞 を1秒で探す

- **「など・なぞ・いかで・いかに・なに」**が文中にあったら → **原因推量** で確定「（どうして）〜なのだろう」

- 「らむ」は **「など…らむ」「いかで…らむ」** の係り結びをよく作る。疑問詞が見えた瞬間に原因推量と答える。

コツ③ 訳語「今ごろ」を当ててみる

- 「今ごろ〜しているだろう」と訳して文意が通れば **現在推量**。
- 目の前の事象でなく、**遠い場所・離れた人物** の今を想像する文脈で出るのが典型。
- 例：「都には今ごろ桜咲く**らむ**」（今ごろ咲いているだろう）

コツ④ 「らむ」の 前が終止形 かチェックすれば誤読が消える

- 終止形（または ラ変・形容詞・形容動詞は連体形）＋「らむ」が原則。
- 「あ**らむ**」の場合は **ラ変「あり」連体形＋む** で「らむ」ではない可能性大 → 助動詞「む」と区別。

試験本番でのチェック順序

1. 「らむ」の **前が終止形** か確認（ラ変なら連体形）→ そうでなければ別の助動詞を疑う
2. **直後** を見る（体言→婉曲、文末→推量）
3. **文中の疑問詞** を探す（あれば原因推量で即決）
4. 「今ごろ」を当てて訳が通れば現在推量

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「あ**らむ**」「侍**らむ**」を「らむ」と誤判定 → ラ変「あり」「侍り」未然形＋推量「む」の可能性。前を確認
- 「**らん**」表記は中世以降の口語形「らむ」と同じもの
- 体言の前でも、文意が「今ごろ〜だろう人」のように現在推量で通る場合は推量とすることもある → 訳優先

採点表

- 基礎（Q1〜Q20）：　／20
- 標準（Q21〜Q50）：　／30
- 応用（Q51〜Q80）：　／30
- 入試レベル（Q81〜Q100）：　／20
- 合計：　／100

【第1部】基礎編（Q1〜Q20）

3用法を識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都に雪降る**らむ**。

答え：現在推量 **解説**：文末で「今ごろ降っているだろう」。

Q2. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> など花散る**らむ**と嘆く。

答え：原因推量 **解説**：「など」（古文の疑問副詞「どうして」）と呼応。「どうして花が散るのだろうと嘆く」。古文では「なぜ」ではなく「など・なぞ・いかで」を用いる。

Q3. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 唐土に伝はる**らむ**書物。

答え：婉曲 **解説**：体言「書物」の前。「中国に伝わっているような／とかいう書物」。

Q4. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 春の野に若菜摘む**らむ**。

答え：現在推量 **解説**：文末。「今ごろ春の野で若菜を摘んでいるだろう」。

Q5. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いかで世の人をも知る**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「いかで」（=どうして）と呼応。「どうして世の人をも知っているのだろう」。

Q6. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 山にこもる**らむ**僧。

答え：婉曲 **解説**：体言「僧」の前。「山にこもっているような僧」。

Q7. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 君は今ごろ何想ふ**らむ**。

答え：現在推量（または原因推量） **解説**：「何想ふ」だけで疑問形なら原因推量に近い。「君は今ごろ何を思っているのだろう」。

Q8. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 雨降る**らむ**夜半。

答え：婉曲 **解説**：体言「夜半」の前。「雨が降っているような夜中」。

Q9. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> なぞ春雨かく降る**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「なぞ」（=どうして）と呼応。「どうして春雨はこんなに降るのだろう」。

Q10. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都人いま咲くと見る**らむ**桜。

答え：婉曲 **解説**：体言「桜」の前。「都人が今咲いていると見ているような桜」。

Q11. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 旅人は今、どこへ向かふ**らむ**。

答え：現在推量（または原因推量） **解説**：「どこへ」（疑問）あり。「旅人は今ごろ、どこへ向かっているのだろう」。

Q12. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月の都の人、今いかに住む**らん**。

答え：現在推量 **解説**：「住む」終止＋「らん」(=らむ)。「月の都の人は、今ごろどう住んでいるのだろう」。

Q13. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 北の方は涙にむせぶ**らむ**。

答え：現在推量 **解説**：文末。「北の方は今ごろ涙にむせんでいるだろう」。

Q14. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 散る花も惜しまる**らむ**春。

答え：婉曲 **解説**：体言「春」の前。「散る花も惜しまれるような春」。

Q15. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いかなる故にて来らる**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「いかなる故にて」(=どんな理由で) と呼応。「どのような理由で来られたのだろう」。

Q16. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月の都に住む**らむ**人。

答え：婉曲 **解説**：体言「人」の前。竹取物語の文体。「月の都に住んでいるような人」。

Q17. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 大空に響く**らむ**雷の音。

答え：婉曲 **解説**：体言「雷の音」の前。「大空に響いているような雷の音」。

Q18. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都に花は咲く**らむ**。

答え：現在推量 **解説**：文末。「都では今ごろ花が咲いているだろう」。

Q19. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> など人は嘆く**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「など」（=どうして）と呼応。「どうして人は嘆くのだろう」。

Q20. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 山陰に咲く**らむ**ひと枝の梅。

答え：婉曲 **解説**：体言「梅」の前。「山陰に咲いているようなひと枝の梅」。

基礎編　／20

【第2部】標準編（Q21〜Q50）

文脈、係り結び、敬語が絡む応用問題。

Q21. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 故郷を発ちて、いま誰か待つ**らむ**と思ふ。

答え：現在推量 **解説**：「いま」（=今ごろ）あり、文末。「今ごろ誰か待っているだろう」。

Q22. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 春や来**ぬらん**。

答え：現在推量（疑問） **解説**：「来」（カ変連用「き」）＋完了「ぬ」終止＋「らん」（=らむ）＋係助詞「や」。「春が来ているのだろうか」。

Q23. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> なぞ世の人は心狭くやある**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「なぞ」＋「らむ」。「どうして世の人は心狭いのだろう」。

Q24. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 蛍の光、明らかなる**らむ**草の上。

答え：婉曲 **解説**：体言「草の上」の前。「蛍の光が明らかであるような草の上」。

Q25. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 我れは知らねども、人は知る**らむ**。

答え：現在推量 **解説**：文末で「人は今ごろ知っているだろう」（自分は知らないが、他人は知っているだろう）。

Q26. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いかでこの音を聞き給ふ**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「いかで」＋「給ふ」（尊敬）＋「らむ」。「どうしてこの音をお聞きになるのだろう」。

Q27. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月かたぶく**らむ**夜半に、起きて見る。

答え：婉曲 **解説**：体言「夜半」の前。「月が傾いているような夜中に、起きて見る」。

Q28. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都の人は花見つ**らむ**。

答え：現在推量 **解説**：文末。完了「つ」終止形＋「らむ」（「らむ」は終止形接続）で「今ごろ（もう）見てしまっているだろう」。

Q29. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> など春雨も降る**らむ**、わが嘆く時に。

答え：原因推量 **解説**：「など」（古文の疑問副詞「どうして」）と呼応。「どうして春雨も降るのだろう、私が嘆く時に」。

Q30. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 御前の物見させ給ふ**らむ**こと、いとあはれなり。

答え：婉曲 **解説**：体言「こと」の前。「ご覧になるようなことが、しみじみと趣がある」。

Q31. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月かげに、影うつる**らむ**池の面。

答え：婉曲 **解説**：体言「池の面」の前。「月の光に影が映っているような池の表面」。

Q32. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 山深く、嵐吹き荒ぶ**らむ**夜半に、独り嘆く。

答え：婉曲 **解説**：体言「夜半」の前。「山深く嵐が吹き荒んでいるような夜中に、独り嘆く」。

Q33. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 君は何ゆゑに泣き給ふ**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「何ゆゑ」（＝どんな理由で）と呼応。「あなたはどうしてお泣きになるのだろう」。

Q34. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都にもいま春来たる**らむ**。

答え：現在推量 **解説**：「いま」＋文末。「都でも今ごろ春が来ているだろう」。

Q35. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 海辺に立つ**らむ**人。

答え：婉曲 **解説**：体言「人」の前。「海辺に立っているような人」。

Q36. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 飛ぶ鳥の心、君や知る**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「や」（疑問）＋「らむ」。「飛ぶ鳥の心を、あなたは知っているのだろうか／知っているとはどういうことか」。

Q37. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いまごろ山に響く**らむ**鐘の音。

答え：婉曲 **解説**：体言「鐘の音」の前。「今頃山に響いているような鐘の音」。

Q38. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> なほ慕ふ**らむ**心、いかに。

答え：婉曲 **解説**：体言「心」の前。「なお慕っているような心は、どうであろうか」。

Q39. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月の都を出でて、いま誰を恋ふ**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「誰を」（疑問）＋「らむ」。「月の都を出て、今ごろ誰を恋しがっているのだろう」。

Q40. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 寒けき夜半に、独り眠る**らむ**人。

答え：婉曲 **解説**：体言「人」の前。「寒い夜中に独り眠っているような人」。

Q41. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 嵐山の紅葉、今いかに散る**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「いかに」＋「らむ」。「嵐山の紅葉は、今ごろどのように散っているのだろう」。

Q42. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 春の野に咲く**らむ**花を見ばや。

答え：婉曲 **解説**：体言「花」の前。「春の野に咲いているような花を見たいなあ」。

Q43. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 我が思ふ人は、いまいかにしたる**らむ**。

答え：原因推量（または現在推量） **解説**：「いかに」あり。「私の思う人は、今ごろどのようにしているのだろう」（完了「たり」終止形「たり」＋らむ）。

Q44. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 風吹く**らむ**山の梢。

答え：婉曲 **解説**：体言「梢」の前。「風が吹いているような山の梢」。

Q45. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都人は雪を見て、何想ふ**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「何」（疑問）＋「らむ」。「都人は雪を見て、何を思っているのだろう」。

Q46. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いま、都に紅葉散る**らむ**。

答え：現在推量 **解説**：「いま」＋文末。「今ごろ都に紅葉が散っているだろう」。

Q47. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> なほ嘆かる**らむ**思ひ。

答え：婉曲 **解説**：体言「思ひ」の前。「なお嘆かれているような思い」。

Q48. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 何の故にて、君は怒り給ふ**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「何の故にて」（=どんな理由で）＋「らむ」。「どんな理由で、あなたはお怒りになるのだろう」。

Q49. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月かげ、雲に隠るる**らむ**夜は、心細し。

答え：婉曲 **解説**：体言「夜」の前。「月の光が雲に隠れているような夜は、心細い」。

Q50. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 京の人は、今ごろ何作る**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「何」（疑問）＋「いまごろ」＋「らむ」。「京の人は、今ごろ何を作っているのだろう」。

標準編　／30

【第3部】応用編（Q51〜Q80）

引用構文、和歌、敬語の組み合わせを含む応用問題。

Q51. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやとたれか問ふ**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「たれか」（=誰が）＋「らむ」。伊勢物語の歌の改変。「誰が尋ねているのだろう」。

Q52. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 嵐山の紅葉、いま錦のごとしと人皆言ふ**らむ**。

答え：現在推量（伝聞的） **解説**：「人皆言ふ」＋「らむ」。「嵐山の紅葉が今ごろ錦のようだと、人々が皆言っているだろう」（伝聞的現在推量）。

Q53. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月の都の人にあ**るらむ**と思ふ。

答え：現在推量 **解説**：「ある」（ラ変連体）＋「らむ」＋引用「と」。「月の都の人であるのだろうと思う」。

Q54. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いかで月をば見**らる**らむ。

答え：原因推量 **解説**：「いかで」＋「見らる」（可能/受身）＋「らむ」。「どうして月を見ることができるのだろう」。

Q55. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都人いま秋の風を聞く**らむ**。

答え：現在推量 **解説**：「いま」＋文末。「都人は今ごろ秋の風を聞いているだろう」。

Q56. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 心知る**らむ**人にこそ、語らはめ。

答え：婉曲 **解説**：「らむ」は終止形接続。四段動詞「知る」終止形＋「らむ」。体言「人」の前＋係助詞「こそ」。「こそ」の結びは已然形「語らはめ」（推量「む」の已然形）。「心を知っているような人にこそ、語ろう」。

Q57. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いかに思ふ**らむ**、人の身は限りなし。

答え：原因推量 **解説**：「いかに」（=どのように）＋「らむ」。「どのように思っているのだろう、人の身は限りがない」。

Q58. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 春過ぎて夏来た**らむ**山。

答え：婉曲 **解説**：体言「山」の前。「春が過ぎて夏が来ているような山」。

Q59. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いかで秋風は人の心を吹く**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「いかで」（古文の疑問副詞「どうして」）と呼応。「どうして秋風は人の心を吹くのだろう」。

Q60. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 嘆かる**らむ**心、いかにせむ。

答え：婉曲 **解説**：体言「心」の前。「嘆かれているような心を、どうしようか」。

Q61. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 海に出でて漁す**らむ**人ぞ多き。

答え：婉曲 **解説**：「らむ」は終止形接続。サ変動詞「漁す」終止形＋「らむ」。体言「人」の前なので婉曲。「海に出て漁をしているような人が多い」。サ変連体形「漁する」＋らむは誤り。

Q62. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 何ゆゑに嘆く**らむ**と人問ふ。

答え：原因推量 **解説**：「何ゆゑに」＋「らむ」＋引用「と」。「『どうして嘆くのだろう』と人が尋ねる」。

Q63. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都の春、今ごろ盛りなる**らむ**。

答え：現在推量 **解説**：「いまごろ」＋文末。「都の春は、今ごろ盛りであろう」。

Q64. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 心ぼそく住む**らむ**山里。

答え：婉曲 **解説**：体言「山里」の前。「心細く住んでいるような山里」。徒然草の文体。

Q65. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 行く春や、今ごろ何方に行く**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「何方に」（＝どこへ）＋「らむ」。「過ぎ行く春は、今ごろどこへ行くのだろう」。

Q66. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 夢の中で会ふ**らむ**人。

答え：婉曲 **解説**：体言「人」の前。「夢の中で会っているような人」。

Q67. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 仏に祈り給ふ**らむ**心ぞ尊き。

答え：婉曲 **解説**：体言「心」の前。「仏にお祈りなさっているようなお心は尊い」。

Q68. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> など、いつまでも生き給ふ**らむ**と思ふ。

答え：原因推量 **解説**：「など」（＝どうして）＋「らむ」。「どうしてずっと生きていらっしゃるのだろう、と思う」。

Q69. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都の人は風雅を解す**らむ**。

答え：現在推量 **解説**：「らむ」は終止形接続。サ変動詞「解す」終止形＋「らむ」。「都の人は今ごろ風雅を理解しているだろう」。サ変連体形「解する」＋らむは誤り。

Q70. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いかでか我が心を知る**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「いかでか」＋「らむ」。「どうして私の心を知っているのだろう」。

Q71. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 嵐に倒る**らむ**木。

答え：婉曲 **解説**：「らむ」は終止形接続。下二段動詞「倒る」終止形＋「らむ」。体言「木」の前なので婉曲。「嵐で倒れているような木」。下二段連体形「倒るる」＋らむは誤り。

Q72. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 風吹けば波立つ**らむ**、海辺の人ぞ恋し。

答え：婉曲 **解説**：体言「海辺の人」の前。「風が吹くと波が立つような、海辺の人が恋しい」。

Q73. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いまごろ何思ふ**らむ**と問ふ。

答え：原因推量 **解説**：「何思ふ」（疑問）＋「らむ」＋引用。「『今ごろ何を思っているのだろう』と尋ねる」。

Q74. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 春の山に響く**らむ**鳥の声。

答え：婉曲 **解説**：体言「鳥の声」の前。「春の山に響いているような鳥の声」。

Q75. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 都の方角、いま雲かかる**らむ**。

答え：現在推量 **解説**：「いま」＋文末。「都の方角に、今ごろ雲がかかっているだろう」。

Q76. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いかで秋風は身にしむ**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「いかで」＋「らむ」。「どうして秋風はこんなにも身にしむのだろう」。

Q77. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月の光、はるかに照らす**らむ**野。

答え：婉曲 **解説**：体言「野」の前。「月の光がはるかに照らしているような野」。

Q78. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 故郷を想ふ**らむ**夜半に、月清く照る。

答え：婉曲 **解説**：体言「夜半」の前。「故郷を想っているような夜中に、月が清らかに照る」。

Q79. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 鶯さへづる**らむ**春の朝。

答え：婉曲 **解説**：体言「春の朝」の前。「鶯がさえずっているような春の朝」。

Q80. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 雪深き山にこもる**らむ**人。

答え：婉曲 **解説**：体言「人」の前。「雪深い山にこもっているような人」。

応用編　／30

【第4部】入試レベル（Q81〜Q100）

Q81. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやとぞ問ふ**らむ**。

答え：原因推量（伝聞的） **解説**：「らむ」が文末。伊勢物語の歌の文末改変。「『私の思う人はいるかいないか』と尋ねているのだろう」。

Q82. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いまごろ家にとどまる**らむ**妻、いかに心細からむ。

答え：婉曲 **解説**：体言「妻」の前。「今ごろ家にとどまっているような妻は、どんなに心細いだろう」。

Q83. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 雪のいと高う降りたるを、例ならず御格子参りて、炭櫃に火おこして、物語などしてあつまり候ふに、「少納言よ、香炉峰の雪、いかなら**む**」と仰せらるれば、御格子上げさせ**て**、御簾を高く上げたれば、笑はせ給ふ。

答え：本文には「らむ」自体は出てこないが、「いかならむ」は推量。 **注釈**：参考問題。枕草子「香炉峰の雪」。

Q84. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 唐土に渡る**らむ**人、なほ風雅を解する**らむ**。

答え：前の「らむ」＝婉曲／後の「らむ」＝現在推量 **解説**：- 最初の「らむ」：体言「人」の前 → 婉曲- 後の「らむ」：文末 → 現在推量「中国に渡るような人は、やはり風雅を解しているだろう」。

Q85. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 行く春に、我が涙やまざる**らむ**。

答え：原因推量 **解説**：「らむ」＋疑問の余韻。「過ぎ行く春に、私の涙が止まらないのはなぜだろう」。

Q86. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月の都の人にしあ**るらむ**を、世の人は誰も知らず。

答え：婉曲（または推量） **解説**：「ある」（ラ変連体）＋「らむ」＋準体助詞「を」。「月の都の人であるようなのを、世の人は誰も知らない」。竹取物語の文体。

Q87. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いみじき宿世の人にあ**るらむ**を、いかでかかる目に遭ふ。

答え：婉曲 **解説**：「ある」（ラ変連体）＋「らむ」＋準体助詞「を」。「並々ならぬ宿縁の人であるはずなのに、どうしてこのような目に遭うのか」。

Q88. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> ねぶたしと言へど、なほ筆を取り、何書く**らむ**かな。

答え：原因推量（または現在推量） **解説**：「らむ」は終止形接続。四段動詞「書く」終止形＋「らむ」。「何」（疑問）＋詠嘆「かな」。「眠いと言いつつ、なお筆を取って、何を書いているのだろうよ」。「書から」（未然形）＋らむは誤り。

Q89. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 鳥のさへづり、いま心地よく聞こゆ**らむ**朝。

答え：婉曲 **解説**：体言「朝」の前。「鳥のさえずりが、今ごろ心地よく聞こえているような朝」。

Q90. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 物のあはれを知らぬ人にあらざる**らむ**。

答え：現在推量 **解説**：「あら」未然＋打消「ず」連体「ざる」＋「らむ」。「物のあわれを知らない人ではないのだろう」（現在推量）。

Q91. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 名にし負ふ都鳥のごとし。「ありやなしや」と問へば、ただ淋しく啼く**らむ**。

答え：現在推量 **解説**：文末。「ただ淋しく鳴いているだろう」。

Q92. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 春のあけぼの、空おぼろに霞む**らむ**山際。

答え：婉曲 **解説**：体言「山際」の前。枕草子の文体。「春のあけぼの、空がほのぼの霞んでいるような山際」。

Q93. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 夢の中で会ふ**らむ**人にぞあらぬ。

答え：婉曲 **解説**：体言「人」の前。「夢の中で会っているような人ではない」。

Q94. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いかにして都人もこの花を見る**らむ**と心配す。

答え：原因推量 **解説**：「いかにして」＋「らむ」。「どのようにして都人もこの花を見ているのだろうかと心配する」。

Q95. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 月の都に住みける人、いまも生き給ふ**らむ**。

答え：現在推量 **解説**：文末。「月の都に住んでいた人は、今もご存命であろう」。

Q96. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 雨に濡る**らむ**枝を、なほ花散らずあれ。

答え：婉曲 **解説**：「らむ」は終止形接続。下二段動詞「濡る」終止形＋「らむ」。体言「枝」の前なので婉曲。「雨に濡れているような枝で、なお花を散らさないでくれ」。下二段連体形「濡るる」＋らむは誤り。

Q97. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> かの人も歌詠み給ふ**らむ**を、いかでか知る。

答え：原因推量 **解説**：「いかでか」＋「らむ」。3人称「かの人」が主語で、尊敬語「給ふ」と整合。「あの方も歌をお詠みになっているのを、どうして（私が）知ろうか」。

Q98. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 行く川のながれは絶えず、もとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、つひに消ゆ**らむ**。

答え：現在推量 **解説**：「らむ」は終止形接続。下二段動詞「消ゆ」終止形＋「らむ」。方丈記の改変。「ついには消えているだろう」。下二段連体形「消ゆる」＋らむは誤り。

Q99. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> いま、行くあてもなく、唐土に向かふ**らむ**人。

答え：婉曲 **解説**：「向かふ」（四段終止）＋「らむ」＋体言「人」。「今、行くあてもなく、中国に向かっているような人」。

Q100. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

> 物のあはれを知らむ人にこそ、なほ嘆かる**らめ**。

答え：現在推量（係り結び） **解説**：係助詞「こそ」の結びは已然形なので「らむ」→「らめ」。「物のあわれを知っているような人にこそ、なお嘆かれているのだろう」。

入試レベル　／20

合計　／100

あとがき

「らむ」の識別の核心： - **直後を見る**：体言→婉曲、文末→推量 - **疑問詞を探す**：あれば原因推量 - **時間副詞を確認**：「いま」「いまごろ」あれば現在推量

「らむ」は **現在進行中の遠くの出来事を推測する** 助動詞。「けむ」（過去推量）「べし」（推量全般）と混同しないこと。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

© 個別指導塾フィット / 中本裕太　https://kotennosennsei.com